

令和5年度 第1回台東区障害者地域自立支援協議会 議事録

開催日時	令和5年6月15日（木曜日） 10:00～11:45	
開催場所	台東区役所 10階 1001会議室	
出席者	委員	赤塚委員長、坂本副委員長、曾雌委員、徳堂委員、川合委員、丸山委員、風間委員、駒沢委員、井上委員、清田委員、穴澤委員、荒田委員、古澤委員、尾本委員、高橋委員
	その他	[障害福祉課] 庶務担当係長2名、給付担当係長、総合相談担当係長2名 [保健予防課] 精神保健担当係長2名 [松が谷福祉会館] 庶務担当係長、障害者デイサービス担当係長、こども療育担当係長、社会参加援助担当係長 [区民部（仮称北上野二丁目福祉施設整備担当）] 参事、課長
	事務局	[障害福祉課] 庶務担当係長、職員4名
欠席者	なし	
傍聴	<ul style="list-style-type: none"> ・一般傍聴 1名 ・令和5年度東京都相談支援従事者現任研修受講者 6名 	
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 新委員の委嘱及び紹介 3 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 就労部会報告 (2) 相談支援部会報告 (3) くらしの部会報告 (4) 障害福祉課より (5) 松が谷福祉会館より 4 その他 5 閉会 	

配布資料	資料 1	令和5年度 台東区障害者地域自立支援協議会委員名簿
	資料 2	台東区障害者地域自立支援協議会設置要綱
	資料 3	令和5年度 第1回台東区障害者地域自立支援協議会(就労部会)報告
	別紙	【就労部会】第6期台東区障害福祉計画への意見
	資料 4	令和5年度 第1回台東区障害者地域自立支援協議会(相談支援部会)報告
	別紙	【相談支援部会】第6期台東区障害福祉計画への意見
	資料 5	令和5年度 第1回台東区障害者地域自立支援協議会(くらしの部会)報告
	別紙	【くらしの部会】第6期台東区障害福祉計画への意見
	資料 6-1	第7期台東区障害福祉計画の体系と現状について
	資料 6-2	第7期台東区障害福祉計画の基本理念(案)について
	資料 6-3	第6期台東区障害福祉計画と第7期台東区障害福祉計画の体系比較
	資料 6-4	第6期台東区障害福祉計画における各事業の進捗状況について
	資料 7	台東区障害者虐待の状況について
	資料 8	医療的ケア児等コーディネーター業務の実施について
資料 9	防災講演会について	

— 議 事 内 容 —

(1) 就労部会報告

資料 「令和5年度第1回台東区障害者地域自立支援協議会(就労部会)報告」

委員

「2(3)企業情報発信について」に記載されている、「株式会社サン・フレイム」の紹介資料だが、ネットで検索してもページが出てこなかった。

委員(報告者)

作成した資料は、各事業所等へ配布しているものである。後日、データを送ることは可能。

委員

障害者の雇用について、量から質をより重視するようになっていく可能性がある。障害者が保護対象から権利主体となり、社会環境のシフト編成が今

後行われていく流れになっているので、ハローワークをはじめ、いろいろな機関と密接に連携していけるとよいと考えている。

別紙「【就労部会】第6期台東区障害福祉計画への意見」に記載のピアカウンセリングの実施については早急に対応してほしい。過去に、就労意欲があり、ある程度給料がほしいという方が相談に来たケースがあったが、仕事を提供しても本人がうまくできず、攻撃的になってしまい断られてしまったケースがあった。本人から最後には自殺したいとの連絡があったため、事業所と連携をとって対応した。精神障害者の方については、対応の難しさがあるのでピアカウンセリングの充実は必要と考えている。

委員長 ピアカウンセリングについては、何か具体的なイメージを持っているか。

委員（報告者） 必要だとの話は挙がったが、具体的な形は見えていない。

委員長 ピアカウンセリングは、介護のなかで役割を担って実施したり、カウンセラーとして実施するなど様々な形があるので、実施方法は検討してほしい。ハローワークから、最近の障害者就労の状況やお考えについてお聞かせ願えるか。

委員 ハローワークを利用する障害者は、コロナ禍で一時減少していたが、昨年度から増加傾向に転じている。ハローワーク上野では令和4年度、152名が就職している。傾向としては精神障害者が半数を占めており、東京都も同様の傾向である。精神障害者が社会に出ていくうえで、会社の中で一緒に働いていけるような環境の整備が課題と感じている。

委員 企業見学を計画しているとのことだが、どこから情報を得たらよいか。

委員（報告者） 自立支援協議会で共有していく。参加希望者がいるのか。

委員 参加を希望するかどうかはわからないが、転職して給料のベースアップを目指している方がいる。今の職場しか知らないため、企業見学等を通じて他社の状況を知ってもらいたいと思っていた。今後相談したい。

委員長 就労部会内だけでなく、希望者は参加できるように、周知することです。一般就労と福祉就労について、前回の本会であり方を検討したが、こ

れからも検討を進めないといけないと思っている。そのためにはハローワークとの連携が絶対必要になるので、よろしく願いしたい。

「2(5)勉強会 ◎1月 就労継続支援事業所の現状と課題」の部会員からの意見についての記載は、当事者がミスを減らし仕事をしやすいようにする工夫ということか。

委員(報告者) その通り。

委員長 「2(5)勉強会 ◎2月 就労継続支援事業所の現状と課題」の部会員からの意見の中で「職員の意識の共有は永遠の課題だと思う」と記載があるが、どういうことか。

委員(報告者) 職員には正規職員・アルバイト・非常勤などがおり、勤務時間帯が被らないことがあったり、年齢も様々なので、同じ方向性で意識を高めあうのが難しい側面がある。

委員 当事業所では知的障害者の生活支援を行っているが、グループホームではすれ違い勤務になりやすく、情報共有が難しい。就労系の職場は比較的支援者が一緒にいて、連携が取りやすいと思っていた。職員の共通業務・支援に対する意識の持ち方について情報がある場合には共有してほしい。

委員長 業務の内容に関して、職員間でどこが一致しているのか、どこが違うのかベテランの職員を通して共有することが重要だと思う。

委員(報告者) 今回の就労部会では、職員の悩みについても挙がってきているので、どのように解決できるか今後も部会で話していきたい。

委員長 職員間で本音が話せることが出発点である。今後その先に行けるよう引き続き対応してもらいたい。

(2) 相談支援部会報告

資料2 「令和5年度 第1回台東区障害者地域自立支援協議会(相談支援部会)報告

委員	<p>自立しなければいけない、自立して頑張っているという人の中にも、危険な状況の人はたくさんいる。本当の自立とは何かと考えることがあるが、人に頼らないことが自立であるとは思わない。自立することで他者との関係が増え、自身が支える側・支えられる側どちらにもなりうることがあると認識するべきである。当事者を見ながら、ケースごとにうまく解決策を見出して欲しい。</p>
委員(報告者)	<p>その人その人にとっての自立とは何かを考えることは重要である。また、就労部会報告の中でも話題に出ていたが、職員間で認識を共有することも必要であると思う。支援者のスタイルによって利用者に提示できる選択肢が変わってくることもあるが、利用者が選択できる幅を広げるという側面もあり、各々の選択を支えていくことが相談支援員の職責であると思っている。</p> <p>令和5年度は「移動支援」を検討テーマにしているが、移動という問題を通じて決定の選択肢が狭められていることがあると考えており、この問題に対して何かアプローチできないかと思っている。</p>
委員長	<p>自立をどのようにとらえるかという観点から、どのように支えていくかということに繋がった。また、一人で頑張ることは自立ではなく、上手にいろいろなものを使いながら、自分の意志で生活スタイルを決め、実際に生活していくことが自立であるとの考え方であったかと思う。</p> <p>今年度は、移動がテーマであるとのことだが、非常に重要なテーマである。行きたい時に行きたいところに行けるというのが大事。実情をしっかりと分析し、検討を進めていってほしい。</p>
委員	<p>2点ある。1点目は就労部会の検討項目の中でも8050問題が出ており、企業と事業所ともに課題が挙がっている。相談支援部会で講演会を検討しているのであればぜひ参加したい。2点目は、移動支援について。就労継続支援B型では高齢化に伴って、作業自体はできるが自力通所ができなくなっている利用者があり、移動手段・支援があれば、今後も継続して利用できる可能性が高い。移動支援に係る検討経過について今後も共有してほしい。</p>
委員長	<p>8050問題は生活全般に関わってくることであり、就労、相談、くらし</p>

の3部会で繋がるテーマである。各部会で情報の共有を進めてほしい。就労継続支援B型利用者の移動支援は大きな課題である。過去に就労継続支援B型に通っていた方で、作業自体は気に入っているが、65歳になって通所できなくなったケースがあった。生活介護への移行を勧められたが、本人が断り、結局入所施設へ行ってしまった。移動支援が利用できれば事業所に残れて、生活は今以上に豊かだっただろうと思う。このように、移動支援は人の生活を大きく左右する問題であると思う。移動支援の実態を明らかにするために、他の部会も事例があれば、積極的に相談支援部会に情報提供してほしい。

地域生活支援拠点の検証は、自立支援協議会の課題になっており、前回は話題になったが、緊急事態があったときの受け入れ先がないので、結局相談支援専門員の負担が重かったという報告であった。この厳しい現状は障害福祉計画へ反映すべきである。また、緊急時の受入対応として、今後も受入施設がないということはあるので区としても対応を考える必要がある。本来業務ができないくらいの負担が出てしまわないようにしなければならない。

障害福祉計画の中で、相談支援の充実についてはどう考えているか。相談支援事業は単に、サービス等利用計画を作成するだけでなく、生活を支えるための相談をすることが重要である。困難ケースが多く出ている中で現状の相談支援事業は十分ではないのではないのか。

委員（報告者）

どこにもカテゴライズされていないケースは職員が所属する事業所が担当することになってしまう。支援の線引きが曖昧であるから難しいところではある。何か現状を打破できるやり方がないか模索していきたい。相談支援事業所の職員数は、数が増えることもあるが、現状を維持することが先決である。一方で、資格保持者は増えていると思うので、働きやすい環境作りができればよいと思う。

委員長

北上野二丁目施設が完成すると現状が変わるかもしれない。別紙「【相談支援部会】第6期台東区障害福祉計画への意見」で計画相談支援事業所への支援の充実とあるが、計画相談だけが相談業務ではない。相談支援の充実は非常に重要なことであると思うので、障害者福祉施策推進協議会もあるので、星印（地域課題としてとらえているものに付す。）を付けたらどうか。

委員（報告者）

承知した。

委員長 8050問題にしても、ケースによって事情が違う。相談支援専門員の方は様々なケースを通じて力をつけてもらいたい。今回の相談支援部会にとどまらず、自立支援協議会全体で考えていきたい。

(3) 暮らしの部会報告

資料3 「令和5年度 第1回台東区障害者地域自立支援協議会(暮らしの部会)報告」

委員長 「2(2)計画策定に向けての地域課題の整理」に記載の項目が特に障害福祉計画への意見は、住宅のこと、人材確保、ショートステイ、防災が大きなものであるということか。

委員(報告者) その通り。

委員 人材確保は課題になっている。相談業務で関わっている事業所でもヘルパーがいないという現状がある。業界全体として、福祉人材が足りてないという中で、福祉のイメージを変えていくとあったが、今までのやり方を抜本的に変えていかなければ人材は集まらないと思っている。当事業所でも介護職フェアに参加しているが、入職者よりも離職者の方が多い状況であり、職員数は遞減している。どの部会でも人材確保の話はしていると思うので、部会を超えてアイデア・情報の共有ができる場が用意されるとよい。福祉の業界だけでなく、別業界の方の意見も聞き、現状を改善できる方法を模索したい。

委員長 一部法人では死活問題となっているとの記載があるが、もはや台東区全体としても厳しい課題であると思う。様々な検討をお願いしたい。あるグループホームで元警備員を職員として雇用し、元警備員であったため夜間対応も順応し、職場になじめたという事例があった。このような成功事例は多くあると思うので、各事業所で情報共有を進めてほしい。

各部会からの障害福祉計画への意見は、既に区に渡っているとのこと。6月28日に障害者福祉施策推進協議会があるので、報告して意見をいただく。

(4) 障害福祉課より

①第7期台東区障害福祉計画（令和6年度～令和8年度）の策定について

資料6-1 「第7期台東区障害福祉計画の体系と現状について」

資料6-2 「第7期台東区障害福祉計画の基本理念（案）について」

資料6-3 「第6期台東区障害福祉計画と第7期台東区障害福祉計画の体系比較」

資料6-4 「第6期台東区障害福祉計画における各事業の進捗状況について」

委員長

国の計画に示された内容、コロナ禍を経た今の時代に合った台東区の計画を作成していく必要がある。引き続き自立支援協議会のみなさまにはご協力いただきたい。

②台東区障害者虐待の状況について

資料7 「台東区障害者虐待の状況について」

委員長

年々対応件数が増加している印象があるがコロナウイルス感染症の影響か。

報告者

(障害福祉課)

啓発の部分で相談支援部会の方と一緒に虐待相談カードを作成したり、対面の講演会は実施できていないがウェブ講演会の周知を十分に行ったうえで開催している。以前よりも当事者が相談しやすい状況になっているのが件数増加の一因と考えている。

委員長

施設従事者等による障害者虐待は、区内、区外のどちらの施設で起こったことか。

報告者

(障害福祉課)

両方である。

委員長

擁護者による障害者虐待は、70代80代の母親による40代50代の子供への虐待もあるとのこと、そういった部分にまで支援の手が差し伸べられるとよい。

③医療的ケア児等コーディネーター業務の実施について

資料8 「医療的ケア児等コーディネーター業務の実施について」

委員長	今年4月から新しく加わった業務とのことだが、3か月の中で、何か報告することはあるか。
報告者 (障害福祉課)	自身が担当したケースであるが、書類上から推測される情報であると、障害が重い方だと思っていたが、実際に該当者の小学校に訪問し直接様子を見ると、意外と元気に活動していた。直接訪問して、状況を把握しないと、その先の支援につなげることが難しく、本業務の重要性を感じた。
委員長	退院前カンファレンスへの参加とあるが、障害があって医療的ケアが必要な幼児が3か月で退院してしまうケースもある。退院前に母親が医師から指導・助言を受けるものの、自宅に戻った後は自身で対応しなければならないことに変わりはない。このような家族が悲しい思いをしないよう、この制度を活用し支援してほしい。 病院のワーカー等にも周知しているのか。
報告者 (障害福祉課)	病院に直接お伝えはしていないが、台東保健所の保健師には伝えている。連絡があった際には医療的ケア児等コーディネーターも含めて退院前カンファレンスに参加する形で情報提供を行っている。
委員長	新しい事業として始まったので委員の中で該当する方を知っている場合には、障害福祉課総合相談担当、保健所へ連絡すれば相談に乗ってもらえる旨、積極的に周知してほしい。また経過について報告してほしい。

(5) 松が谷福祉会館より ※次第から順番を変更している。

②防災講演会の実施について

資料9 「防災講演会について」

委員長	申込しなくても参加できるか。
報告者 (松が谷福祉会館)	当日参加でも対応できる可能性はある

①（仮称）北上野二丁目福祉施設整備について

委員長 中間報告（第3回定例会）、最終報告（第4回定例会）の具体的な時期はいつか。

報告者 第3回定例会が9月、第4回定例会が12月を予定している。
(松が谷福祉会館)

委員長 よりよい施設を作るために、様々な情報を収集して盛り込んでほしい。次回の自立支援協議会では中間報告の内容を聞くことができるか。

報告者 お伝えできると思う。
(松が谷福祉会館)

4. その他

特段なし。